

消化器・肝臓内科

■ スタッフ

科長		竹井 謙之
副科長		岩佐 元雄
		山本 憲彦
医師数	常 勤	16名
	併 任	7名
	非常勤	13名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

1. 高度な医療、先進的な医療を展開しています。

- 1) 消化器疾患全領域を対象として、適確な診断や最適で患者様に優しい治療を実践しています。
- 2) 内視鏡では、最先端の内視鏡やカプセル内視鏡を導入し、東海地区でも屈指の患者数です。
- 3) 肝疾患では、肝炎・肝硬変や肝癌に対し最新の経口剤療法やラジオ波熱凝固療法を多数施行するとともに、肝硬変に対する栄養療法を基軸とした総合管理、肝移植前の検査なども行っています。また、「肝炎相談支援センター」を開設し、県内の肝疾患の診療ネットワークの中心的な役割を果たしています。
- 4) 膵炎、劇症肝炎、クローン病などの難病に対しても、新しい治療法を実施しています。
- 5) 肝炎の治療反応性を予測する遺伝子診断（薬剤耐性変異）を用いたテーラーメイド医療、非アルコール性脂肪性肝炎に対する鉄制限食、酢酸散布を併用した拡大内視鏡による癌の診断などの独自性のある医療を推進しています。
- 6) 三重県随一の臨床試験担当科として多くの治験を実施し、最新の治療薬へのアクセスを提供しています。

2. 主な診療対象疾患

1) 肝疾患

急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、自己免疫性肝炎、原発性肝癌および食道静脈瘤の診療に

取り組んでいます。また、新規薬剤等の臨床試験も積極的に進めています。

2) 消化管疾患

食道、胃、小腸、大腸などの消化管疾患の診療に取り組んでおり、早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、消化管出血に対する低侵襲カプセル内視鏡、クローン病・潰瘍性大腸炎に対する新規薬剤等の臨床試験も積極的に進めています。

3) 胆膵疾患

最新の医療機器を用い、胆嚢、胆道、膵臓などの疾患の診療に取り組んでおり、超音波内視鏡下での針生検（EUS-FNA）による組織診断、ドレナージほかステント治療などを多数施行しています。

■ 診療体制と実績

スタッフの取得専門医

日本内科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本消化器内視鏡学会の指導医を多数擁し、また多くのスタッフが専門医を取得しています。

他に、がん治療認定医機構がん治療認定医、国際メンターシップ協会アソシエイトメンター、米国内科消化器病学会フェローなどの資格を有しています。

高度先進・特殊医療

- 薬剤耐性変異検査を用いた C 型慢性肝炎のテーラーメイド医療
- 非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）に対する鉄制限食療法
- 酢酸散布や Narrow Band Imaging（NBI）を併用した拡大内視鏡によるポリープや癌の診断
- 食道・十二指腸・大腸早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

特徴的な検査・医療設備

- 超音波エラストグラフィ・ファイブロスキャン
- 間接熱量計・体組成計・持続血糖測定システム
- 高性能電子内視鏡
- 超音波内視鏡・超音波細径プローブ

- 膵管プローブ
- 内視鏡レーザー照射装置
- 小腸内視鏡・カプセル内視鏡

■ 診療内容の特色と治療実績

主な診断と治療

- C型慢性肝炎に対する最新の経口剤治療
- 非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）の病態診断と治療
- 肝臓に対するエコーまたは CT ガイド下ラジオ波焼灼療法（RFA）
 - ◆ 2017 年度 肝臓に対するエコーまたは CT ガイド下ラジオ波焼灼療法（RFA） 50 例
- 肝硬変患者に対する栄養療法、腹水濾過濃縮再静注法など
- 肝臓の集学的治療（肝動脈内持続抗癌剤注入療法、分子標的薬、骨や肺転移に対する RFA など）
- 「肝炎相談支援センター」による患者相談、医療従事者に対する講習会の開催
- 栄養サポートチーム（NST）による消化器疾患に対する栄養療法
- 食道・胃・大腸早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）
 - ◆ 2017 年度 食道・胃早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）施行件数 85 件
 - ◆ 2017 年度 大腸早期癌早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）施行件数 23 件
 - ◆ 2017 年度 大腸内視鏡的粘膜切除術（EMR）施行件数 232 件
- 小腸内視鏡、カプセル内視鏡による小腸病変の診断
 - ◆ 2017 年度 小腸内視鏡施行件数 72 件
- 難治性のクローン病・潰瘍性大腸炎に対する抗 TNF- α 抗体や白血球除去療法
- 胆、膵疾患に対する内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）、胆管・膵管内エコー（IDUS）を用いた診断
- 内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）と内視鏡的胆管ドレナージ（EBD）
- 超音波内視鏡下での針生検（EUS-FNA）による組織診断

- ◆ 2017 年度 内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）施行件数 350 件
- ◆ 2017 年度 超音波内視鏡下での針生検（EUS-FNA）施行件数 120 件

■ 臨床研究等の実績

肝臓分野

- 非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）及びアルコール性肝障害の病態解明と治療学
- HCV 及び HBV 遺伝子変異とウイルス排除への応用
- 肝線維化抑制療法の開発
- 肝疾患の新規血中バイオマーカーの探索

消化管分野

- 拡大内視鏡を用いた消化管疾患の診断法の開発
- 炎症性腸疾患の腸内細菌叢と局所免疫異常
- 小腸疾患の病態解明
- 逆流性食道炎における食道粘膜微細構造変化

胆道・膵臓分野

- 超音波内視鏡下針生検材料を用いた膵疾患の予後予測と新規治療法の開発
- 血中・尿中新規膵癌バイオマーカーの探索

臓器相関

- 肝臓-腸-胆嚢-膵臓の臓器間相関を示す消化器疾患（合併症を含む）における、臓器間連繋を担う新規病態情報伝達体の解明とその機能解析

治験

- 非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）に対する新規アポトーシス阻害剤の有効性（第3相）
- 非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）に対する新規抗アルドステロン剤の有効性（第2相）
- 肝細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害剤併用投与の有効性（第3相）

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/shoukakikanzou/>